

IAQG 総会 ヴァーチャル会議について

1. はじめに

IAQG (International Aerospace Quality Group) ヴァーチャル会議が、2020年10月15日にウェブ上で開催された。通常IAQG会議は、年2回(春、秋)対面で開催されるが、本年はCovid-19の世界的な流行の中で、春の会議に引き続きウェブ上でのヴァーチャルな開催となった。以下に今回の会議の概要について紹介する。

2. 会議概要

IAQGは、「世界の航空宇宙、及び防衛産業に関わる会社が、互いの信頼に基づいて強力な協力体制を構築・維持することにより、価値創造の流れの全段階において品質の著しい改善とコスト削減を実現するイニシアティブを推進する」ことを目的とした組織であり、アメリカセクター (AAQG ; Americas Aerospace Quality Group)、アジア太平洋セクター (APAQG ; Asia Pacific Aerospace Quality Group)、ヨーロッパセクター (EAQG ; European Aerospace Quality Group) の世界3セクターにより構成される。JAQG (Japanese Aerospace Quality Group) は、APAQGの一員であり、IAQG活動に参画することにより、日本の航空宇宙産業界の意見を国際品質規格や国際航空宇宙認証制度のルール等に反映させている。

IAQGは、

- ・航空宇宙業界独自規格(9100シリーズ規格)の制定及び維持
 - ・品質改善のためのガイダンス資料の提供
 - ・9100シリーズ認証制度の開発及び維持
- を主な活動目的とした航空宇宙防衛産業の品

質に関わる会議体である。

IAQGは、IAQGのほとんどの活動に積極的に参画しており、我が国の意見、及び9月に開催したAPAQGヴァーチャル会議で取りまとめたAPAQGの意見をIAQGに提案、反映する作業を行った。

3. 各論

以下に今回の会議における総会、執行委員会、戦略検討ワーキンググループ、国際航空宇宙認証制度管理チーム、並びに関係強化戦略部会等の内容を紹介する。

(1) 総会 (General Assembly)

総会では、執行委員会報告、IAQG財務報告、戦略検討ワーキンググループ会議報告、OPMT (Other Party Management Team ; 認証制度管理チーム) 報告、PSCI (Product & Supply Chain Improvement ; 製品及びサプライチェーン改善) チーム報告、規格検討チーム活動の進捗報告などが行われた。

総会では以下の事項が承認されている。

- IAQG春のヴァーチャル会議議事録
- EC (Executive Committee ; 執行委員会)]メンバーとして、IAQG President Andy Maher氏 (BAES)、Susie Neal氏 (RAYTHEON TECHNOLOGIES、AAQGセクター)、Joerg Werner氏 (AIRBUS、EAQGセクター)、岡本勇司氏 (SUBARU、APAQGセクター) が再任された
- IAQG財務担当官としてAlex Valderey氏が再任された
- 2021年IAQG 予算の承認
- PSCI チームリーダーの交代 (Bernard

Lauras氏（AIRBUS - EAQGセクター）から Mark Doolittle氏（RAYTHEON TECHNOLOGIES、AAQGセクター）へ）

(2) 執行委員会 (Executive Committee)

執行委員会は、IAQGプレジデント、各セクターリーダー、財務管理チームリーダー等から構成されIAQGの組織運営に関連する重要事項を討議する委員会である。Covid-19の影響を航空宇宙産業を大きく受け、リスク軽減のため対面会議のキャンセル、出張の停止、認証要求事項の見直し等が行われた。Covid-19の影響がどの程度続くかは不透明であるが、この機会にヴァーチャルアプリケーションの強化が図られている。又、各セクターの会議も今回のIAQG総会を前に、ヴァーチャルで開催されたことが報告された。



執行委員会 報告
Andy Maher 氏 (BAES)

IAQGの将来戦略である新ITシステム構築状況についての情報が共有され、IAQGウェブサイトが優れたウェブサイトデザインを表彰する2020年ウェブマーケティング賞を受賞したことが紹介された。

現在開発中のOASIS (Online Aerospace Supplier Information System) V3プロジェクトでは、Intact社のEcertプラットフォームへの移植作業が進められていることが紹介され



ウェブマーケティング賞受賞

た。この他として今後新たに発行する規格や技術資料は、IAQGとして発行するため、現行のSAE (Society of Automotive Engineering) ウェブサイトからIAQGのホームページにデータを移行中との紹介があった。

(3) 戦略検討ワーキンググループ (Strategy Working Group)



戦略検討委員会 報告
Fortunato Giardina氏 (LEONARDO)

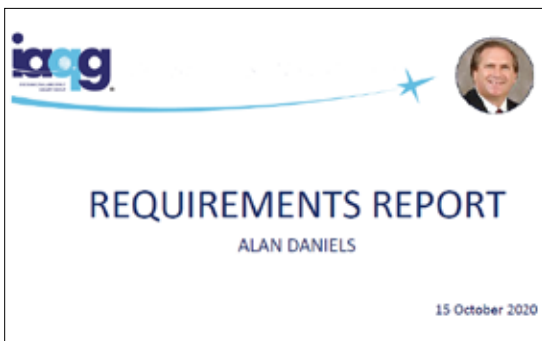
戦略検討ワーキンググループは、IAQGプレジデント、各セクターリーダー、財務管理チームリーダー、各分科会のリーダー等から構成され、下位の組織の活動を統括す

るとともに、IAQGの上位戦略を検討しその成果を総会に上程する機能を担っている。

(4) 規格要求分科会 (Requirements Team)

本分科会は、9100規格（国内ではJIS Q 9100 として発行）をはじめとする9100シリーズ規格（9100規格とそれを基に作成されている9110、9120及び9115規格）を含め、製品とプロセスの整合性・完全性を改善していくための品質要求事項制定や展開支援文書を作成・維持している。報告では、9100規格や9115規格、9101規格の他、現在IAQGで新規開発・改正中の規格についての作業状況が紹介された。

9100規格チームからは、AIMM (Assessment and Improvement Maturity Model；成熟度評価モデル) モデルの開発状況 (AIMM1.0 9100：2016を、次期9100規格改定版発行の2年前 (=2021年中) に発行し、次期9100規格発行に併せてAIMM 2.0 次期9100規格を改訂する計画であること) が紹介された。



規格要求分科会 報告
Alan Daniels氏 (Boeing)

(5) 製品及びサプライチェーン改善分科会 (Product and Supply Chain Improvement)

本分科会は、製品やサプライチェーン改善のための活動支援を目的とした活動を行っている。その一つがSCMH (Supply

Chain Management Handbook) の作成・維持であり、サプライヤが顧客の要求・期待や組織の目標を満たすためのガイダンスを提供している。



PSCI チーム報告
Bernard Laurus氏 (Airbus)

本報告では、新たなSCMHとして”6点の新規発行、6点の改定版の発行が行われ、7点の開発プロジェクトが進行中であるとの紹介がなされた。



IAQGホームページの紹介

なお、JAQG SCMH ワーキンググループでは、IAQGで発行されるSCMH文書を順次和訳し、JAQGメンバー専用ページで公開しているので積極的に活用して頂きたい。また、一昨年度よりSCMHをJAQGメンバーの皆様にも説明する機会 (SCMH説明会) を設けているので、多数参加賜りたい。

(6) 国際航空宇宙認証制度管理チーム (Other Party Management Team (OPMT))

OPMTは、航空宇宙品質マネジメントシステム認証制度の運用に必要な規格の作成、認証制度の運用管理や各セクター間の相互監視等を行っている。Covid-19は、航空宇宙品質マネジメントシステム認証制度に大きな影響を与えているが、実践的なアプローチにより審査が継続され、認証が維持されているとの報告があった。(Covid-19の影響での認証失効が289件あったが、その内99件(34%)が認証を再取得した。) 現在、失効した認証文書は全認証文書の約1.2%と低い水準である。

OPMTでは現在、認証制度の運用に必要な規格である9104-1「認証プログラムに対する要求事項」、9104-2「登録／認証プログラムのオーバーサイトに対する要求事項」、9104-3「航空宇宙審査員の力量及び研修コースに関する要求事項」規格の改訂に着手している。9104-1規格は、2021年中に再投票を行う。9104-2規格については、2021年発行予定である。9104-3規格は2021年初旬に各セクターで規格を発行する予定である。



OPMT 報告
Marie-Laurence Petit (Airbus)



Covid-19に関する審査緩和措置

4. おわりに

世界的なCovid-19流行のもと、2020年春に引き続き今回もヴァーチャルでの会議開催となった。

対面での会議ができない状況が続くが、IAQG OPMTチーム、認証機関、認証取得組織それぞれの献身、努力により審査が継続され認証文書の失効が約1%程度と低い水準だったとの報告もあり、前途にかすかではあるが明るい見通しも見えてきた。現在、Covid-19の感染流行が収束すれば、IAQG会議を大阪で開催することも計画されており、早く通常の日常が戻り、広く海外の方たちとの交流が復活することが期待される。